

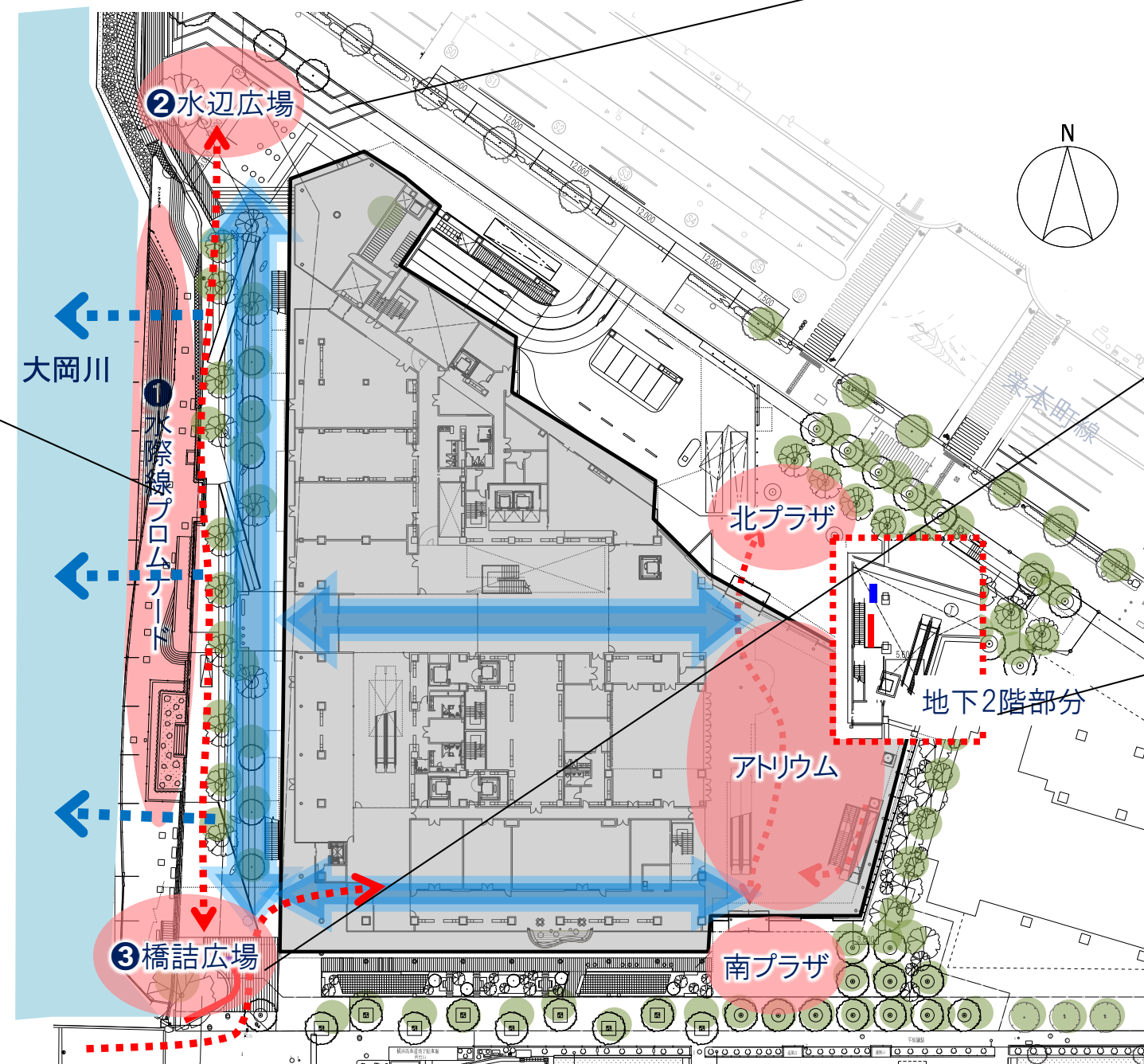
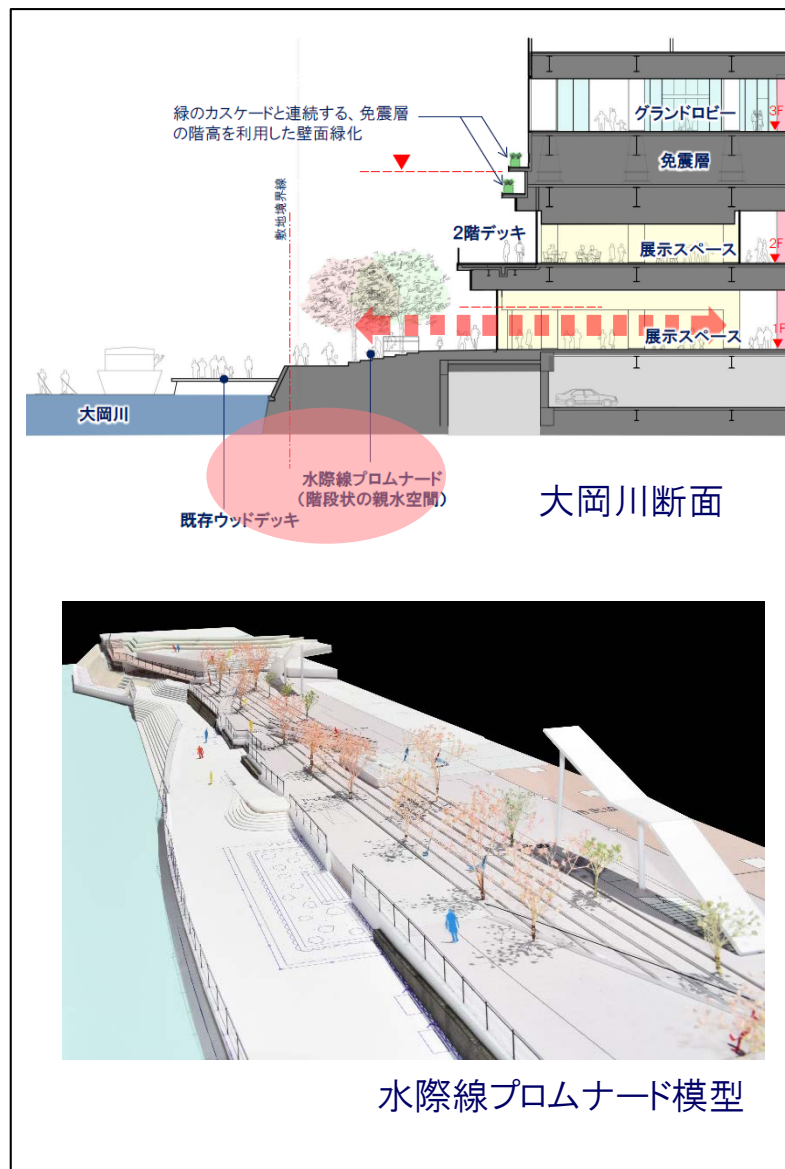
みなとみらい線馬車道駅と接続するアトリウムを中心に、大岡川の水辺環境と連続する低層部の賑わいを創出します。

①水際線プロムナード、②水辺広場、③橋詰広場を整備しプロムナードには桜を中心とした植栽を行い桜並木で市民に親まれる大岡川との親水性を演出します。

埋蔵文化財発掘調査で出土した遺構の一部を新市庁舎の外構材料として再利用や展示を行います。

展示にあたっては、遺構の説明とともに「開港のまち」として発展した横浜の歴史も紹介する計画です。

※具体的な展示計画は、引き続き関係部局と調整を行います。



④江戸末期の石積み護岸  
・一部を地中に現状保存  
・解体する部分は石材を再利用し石積みを再現・展示



旧護岸(発掘時)

⑤建物基礎と考えられる石組  
・外構植栽柵の縁石として再利用・展示

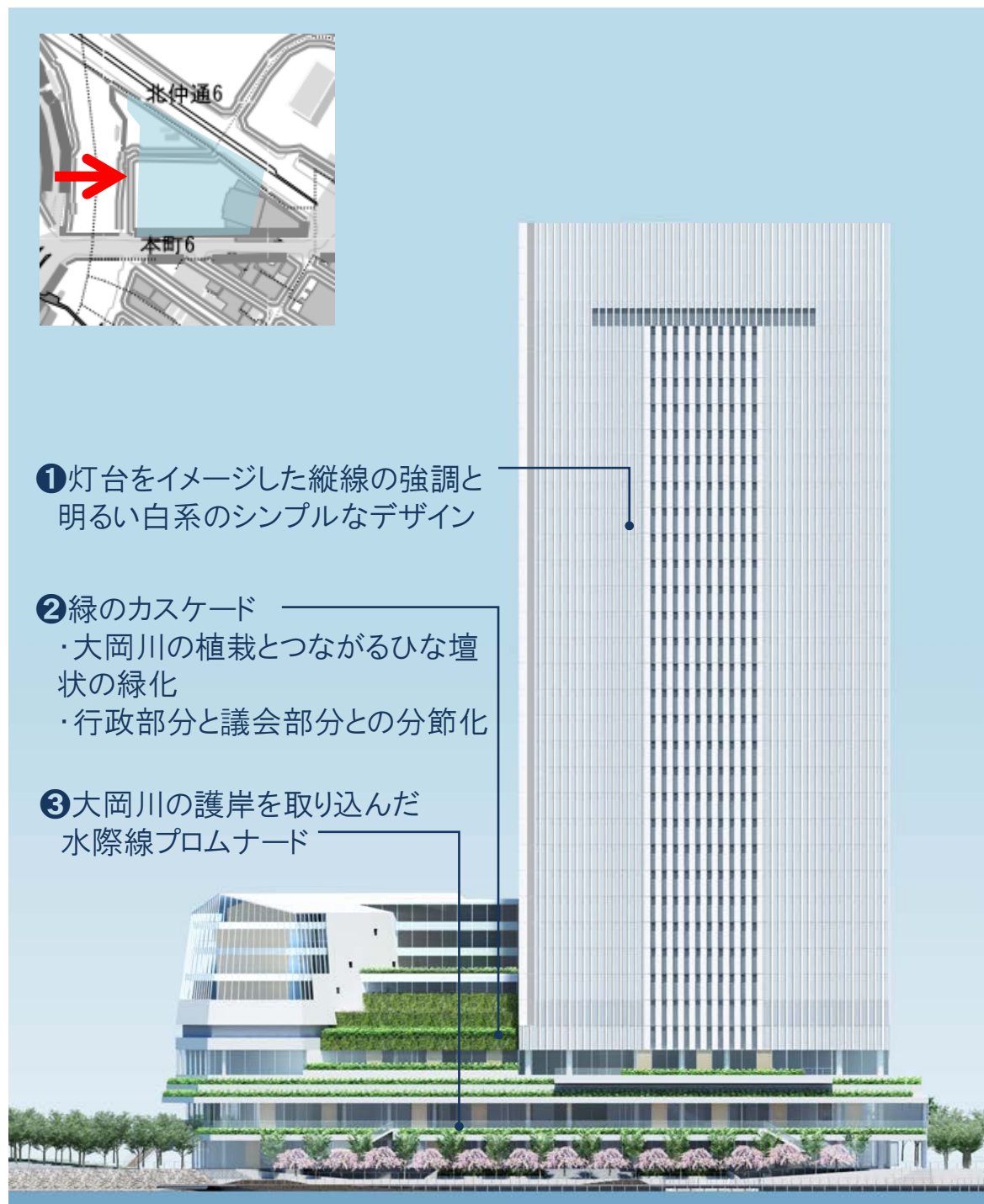


利用予定石柱(発掘時)

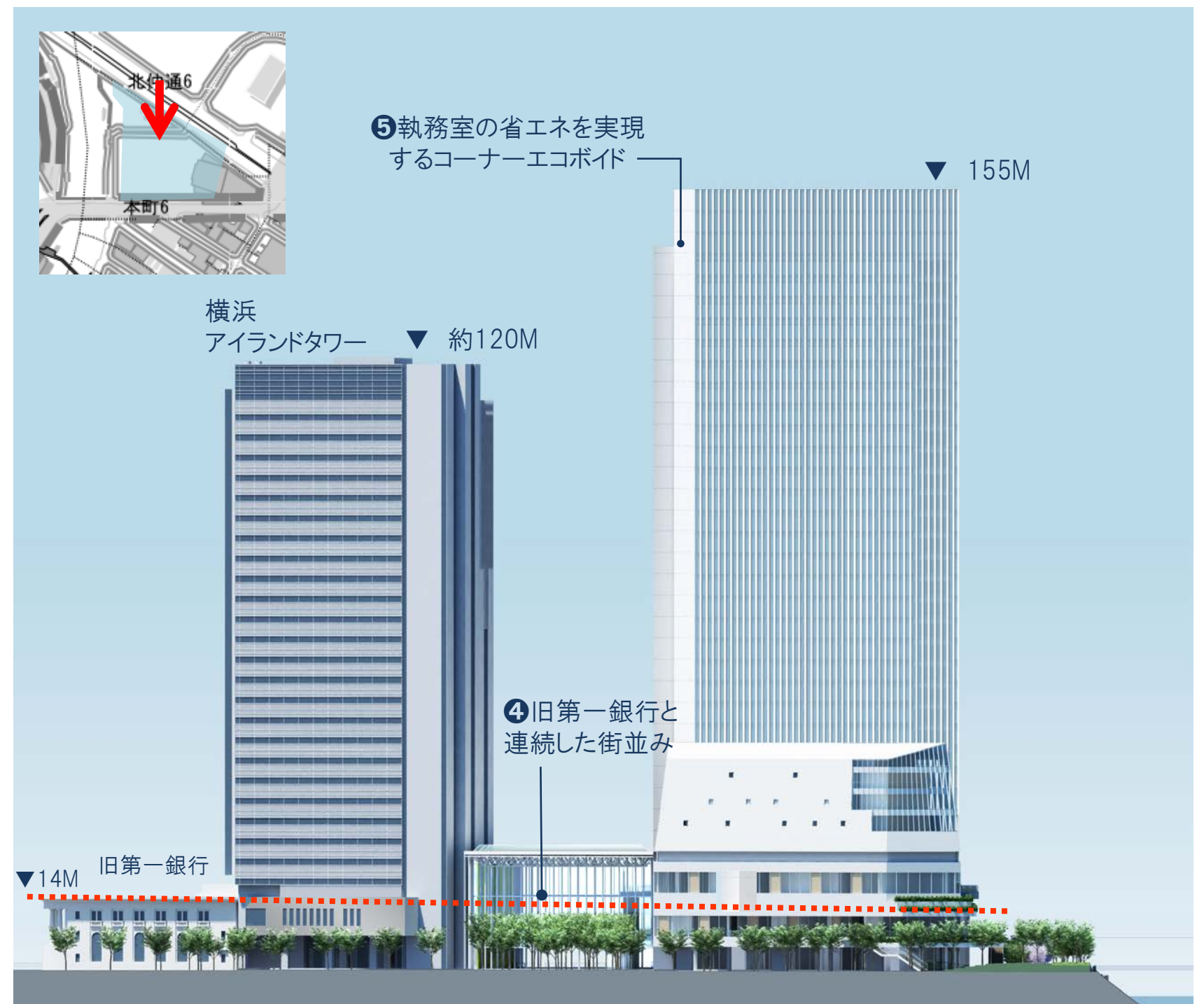
⑥横浜銀行集会所基礎  
・関東大震災の影響で、隆起した地盤部分を剥ぎ取り、模型・展示



隆起部分剥取



西側立面図

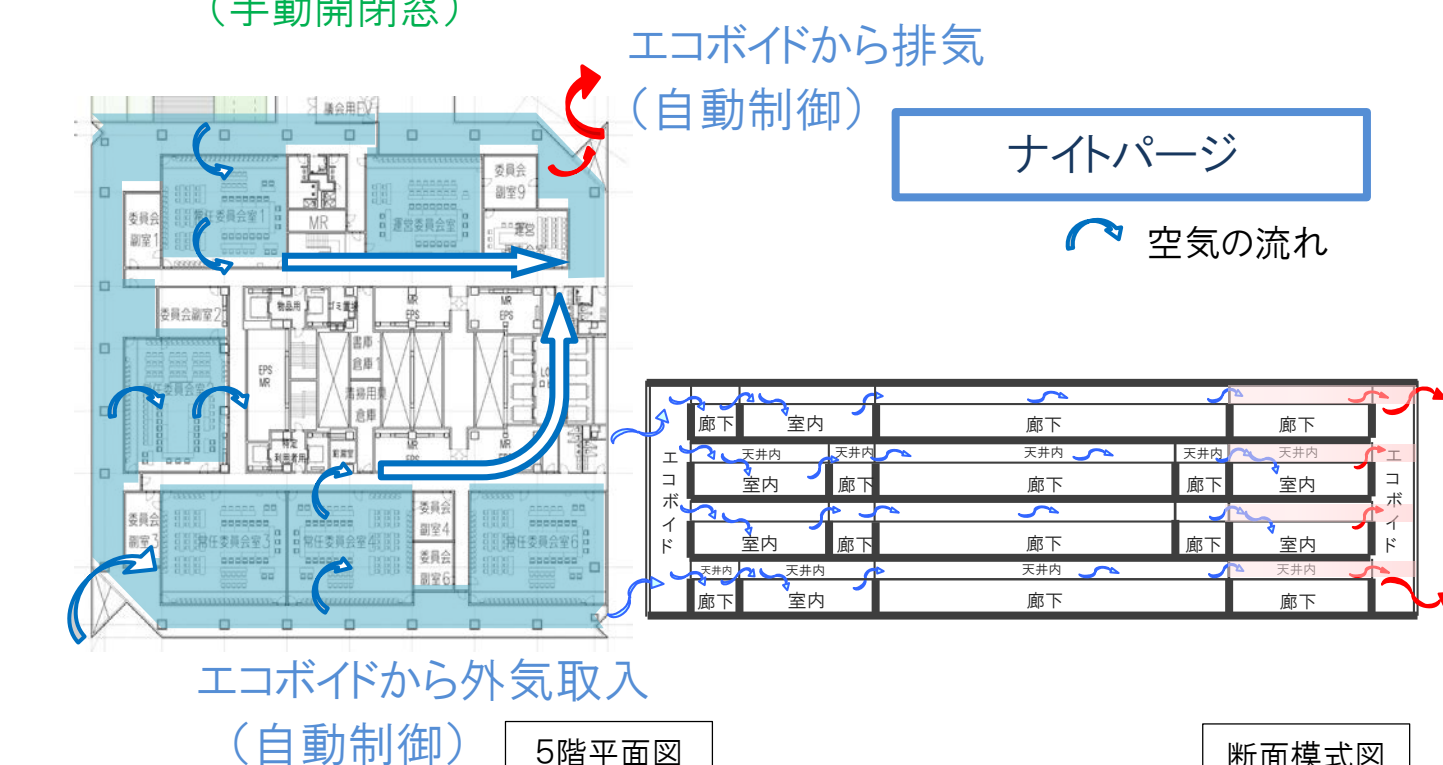
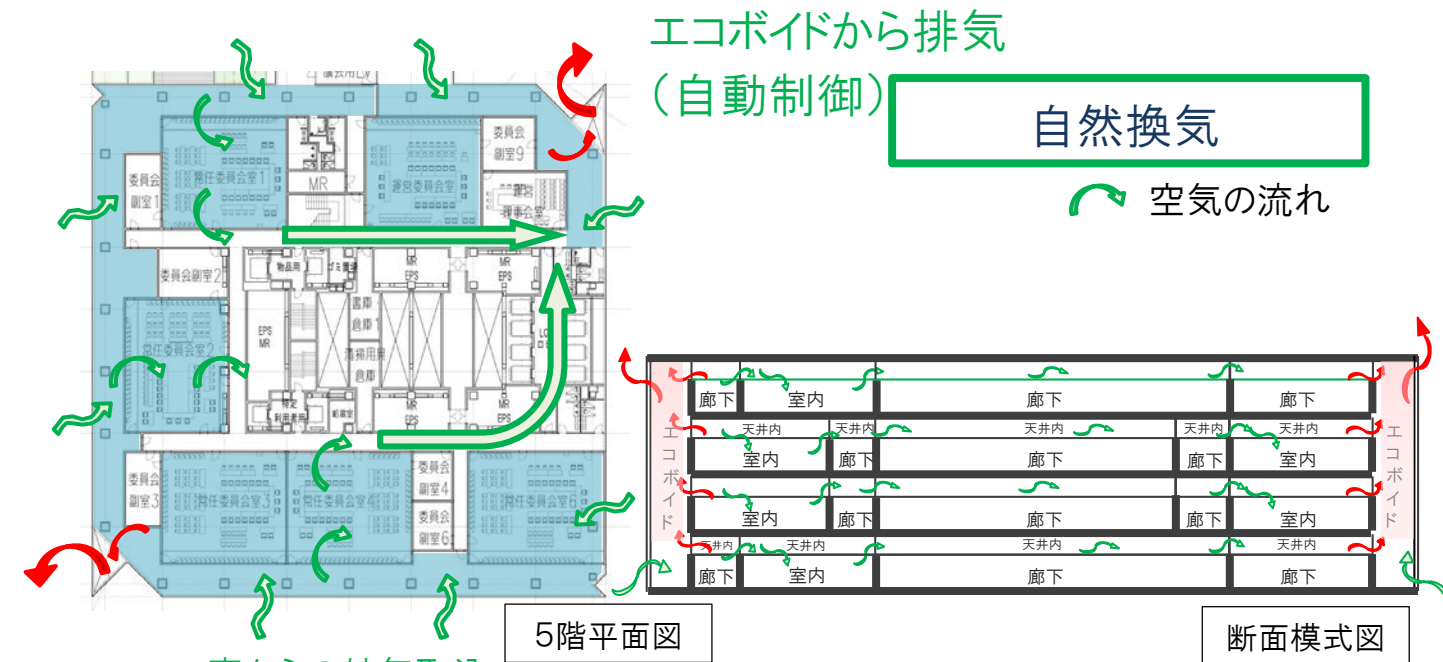
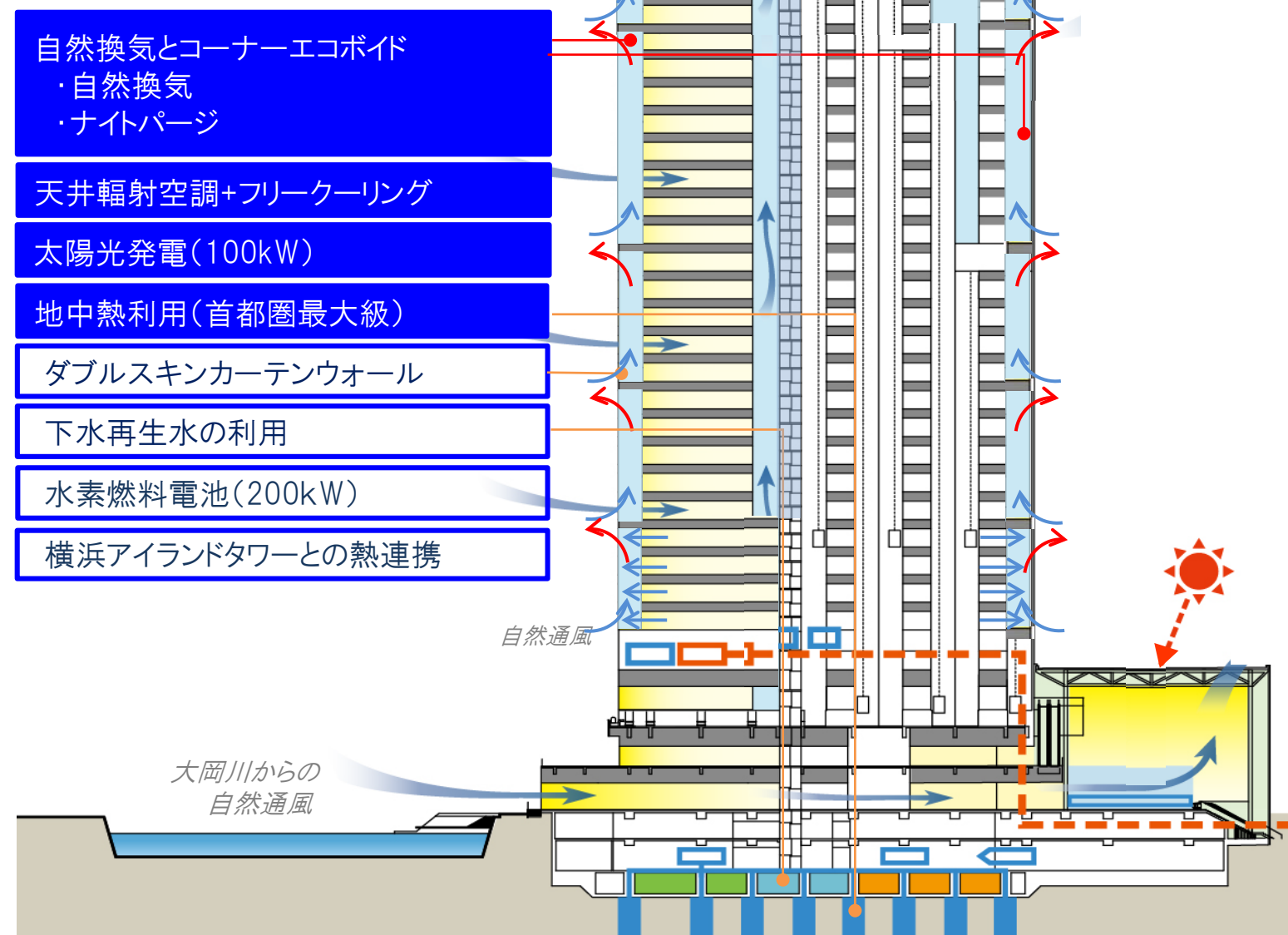


北側立面図

環境に最大限配慮した低炭素型の市庁舎

- ① 積極的な外気活用や高効率機器により最高ランクの省エネビル(エネルギー削減50%以上)を目指す
- ② 窓から外気を取込むことで中間期(春・秋)の空調負荷を低減し、夏期夜間の建物内の熱だまりの解消を行う(執務環境向上)

※「建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)」  
最高ランク「☆☆☆☆☆」の省エネビルを目指します。



様々な危機に対処できる危機管理の中心的役割を果たす市庁舎

①国内最高ランクの耐震性能

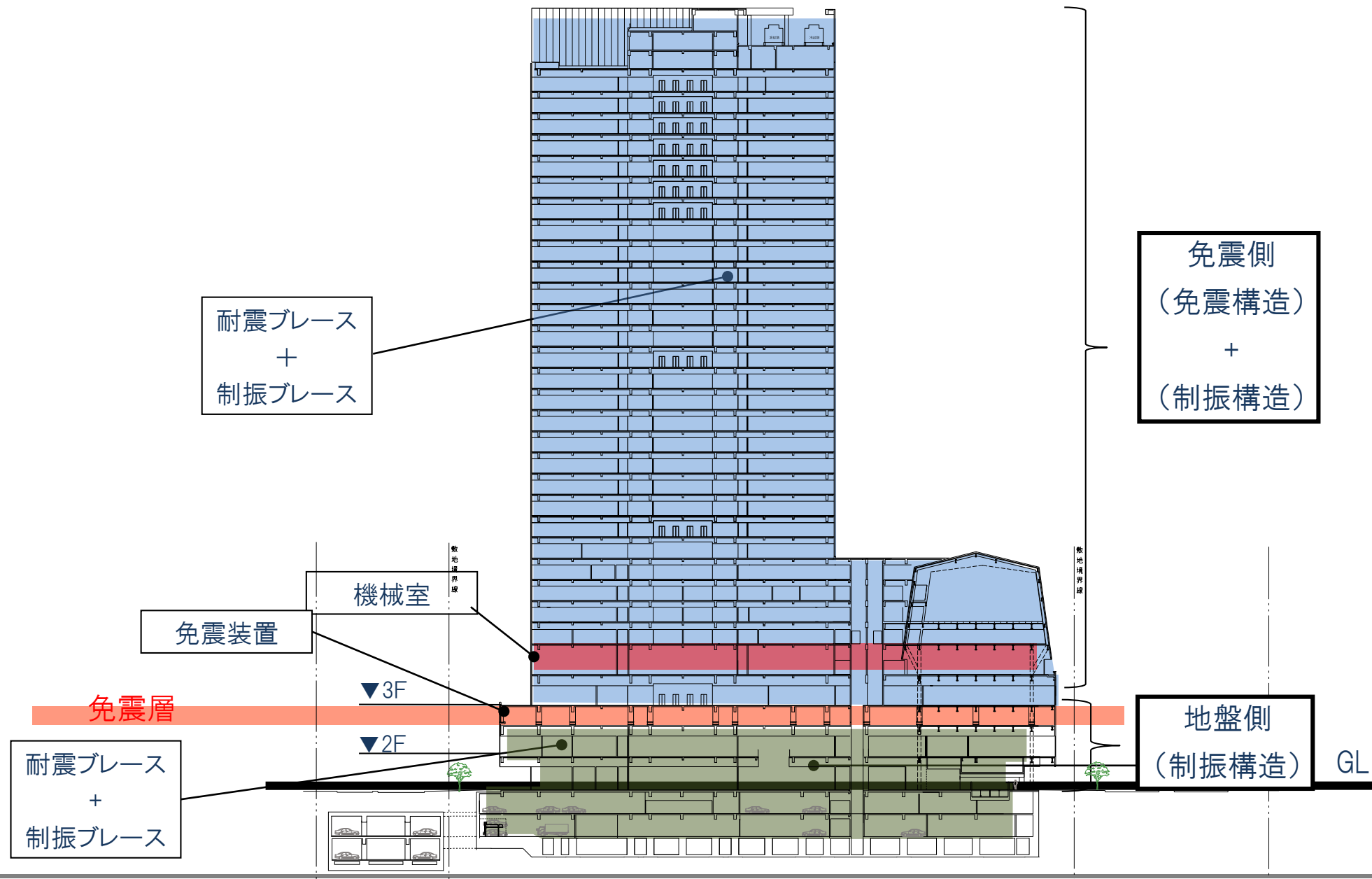
・免震構造と制振構造を組合せ、震度6強から震度7程度の大地震や長周期地震動に対しても業務継続が可能

②BCP機能

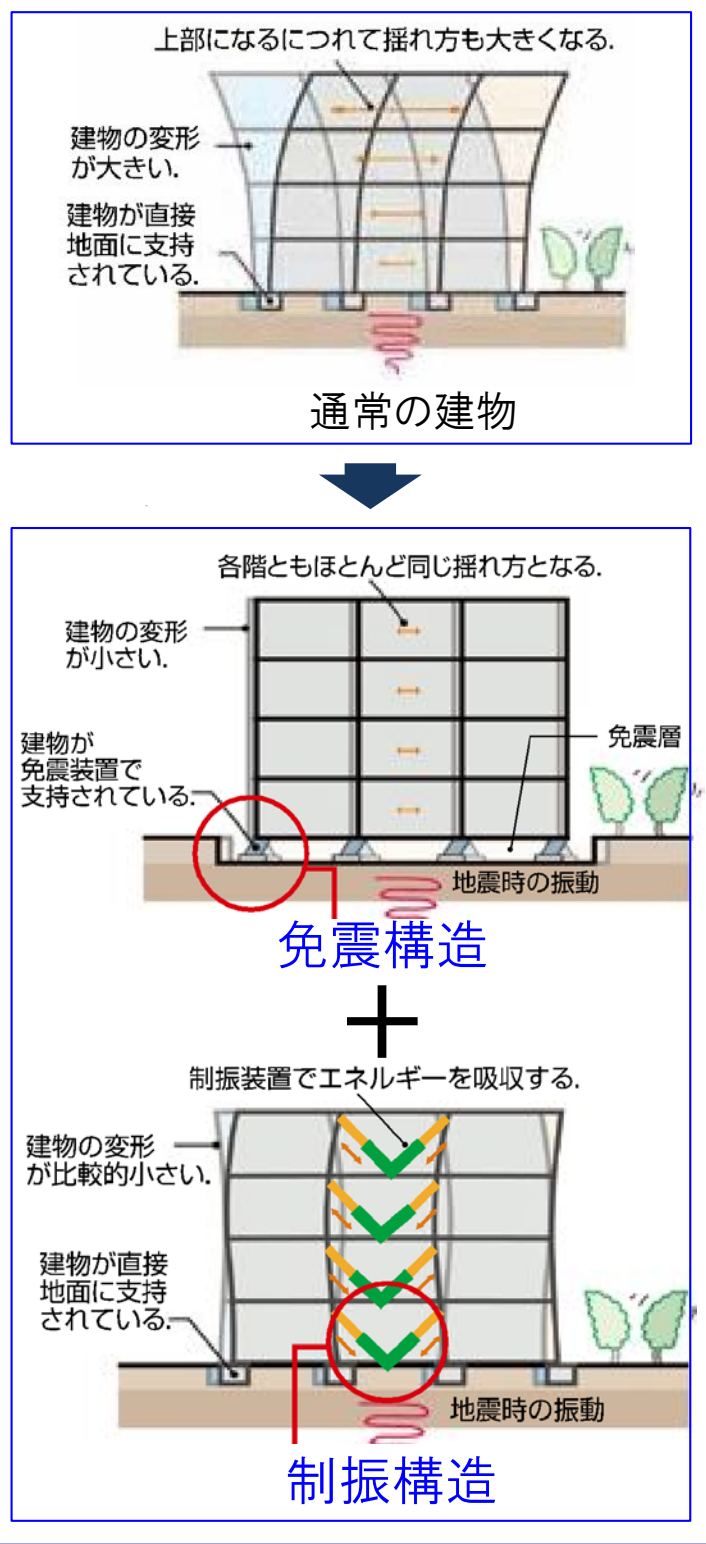
・災害時の飲料水・便所洗浄水、停電時の非常用発電機による電源を7日分確保  
 ・津波対策として機械室を4階に設置

③地震・構造モニタリングシステムの導入

・緊急地震速報を活用した地震到達前のエレベーター制御  
 ・各階のセンサーが建物の揺れを感知し、蓄積したデータを建物の維持管理に活用



ハイブリッド免震建築物(今回の建物)



# 今後のスケジュール

